

Title	日蘭兩國親睦の賞牌：遣歐使節一行に贈られた記念牌二種
Sub Title	
Author	昆野, 和七(Konno, Wahichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1951
Jtitle	史学 Vol.24, No.4 (1951. 4) ,p.107(547)- 107(547)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19510400-0107">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19510400-0107</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

はれ繁雜な用務を伴ひ然も利潤の不安定な土地所有よりも遙に有利な投資として、單に御金藏銀のみならず自己資金をも廻して此の名目貸附を行った。それは金融資本家としての三井に新たな然も有利な一經營を加へたわけであるが、それが反面に於て三井の土地所有の擴大を阻んだ主な原因をなしたのである。尙かゝる作徳米を抵償とする大阪金融資本の農村への名目貸附としては、三井の御爲替銀郷貸の外にも、例へば兩替商加嶋屋作兵衛方で扱つてゐた御貸附銀郷貸御貸附銀とは幕府が天明御替金を利子附で十人兩替屋に貸附けた銀の事水戸御貸附銀郷貸等の例がある。(三井文庫藏長田文書)

## 日蘭兩國親睦の章牌

— 遣歐使節一行に贈られた記念牌二種 —

一八六二年(文久二年)竹内下野守を正使とする幕府から派遣された遣歐使節の一行が和蘭に到着したとき、時の和蘭政府は手厚く歓迎し、日蘭兩語で一行の名簿を製作した外親睦の記念牌を製作して一行に贈つたことは、以前から知られていたが、一行の名簿の方は、可成り前から慶應義塾圖書館に所藏され、今回記念牌の方も特志家の好意に依つて義塾で秘藏することとなつた。

この記念牌は圓形で銀製の二種で、表には右方に葵の紋の上に日章旗を配し、左方にはオランダ國の徽章を置き、上に一六〇九、下には一八六二とある。この年代は慶長十四年(一六〇九年)日蘭交通の開けた年と、

文久二年(一八六二年)日本使節のオランダ訪問の年を現はしたもので、その周圍には左の通りローマ字で「日本大君の正使和蘭に來る」と刻んである。背の方には、「兩國親睦益篤」と漢字が刻まれ、その周圍には蘭文で「和蘭王ツイルレム三世治下に於て」記されている。

この記念牌の舊藏者は宮田松之助氏で、大學文學部教授松本信廣氏の周旋で、義塾の圖書館で所藏することになつたものであるが、宮田氏はその後義塾に雑誌「古錢」第三卷第一號(大正八年一月)所載の「日本和蘭兩國親睦の章牌」と題する考證文の寫を送つて來られた。それによると紋章研究家沼田頼輔氏の考證では、日章旗が國旗に定められたのは嘉永七年七月であるが、記念牌に日章旗が用いられたのは、このオランダ政府製作の記念牌が最初であらうということである。(昆野和七記)